

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わらべうた等々力保育園
施設所在地	世田谷区等々力3-27-15パークハイム等々力3丁目巻番館
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

個々の発達を促す安全な玩具環境の探求～月齢差を考慮した環境づくり～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

例年0歳児における室内環境は育児担当制を活かし、個々の発達に合わせ次の発達を促すおもちゃ、手作りの壁面玩具等を中心とした遊び、主体性を尊重した生活の環境設定を行っている。年度によってクラス内の月齢差に違いもある中、個々の発達を保証しながら安全な室内の玩具環境のデザインを見通しをもって出来る土台作りにしていく。

2. 活動スケジュール

7月～9月：個々の発達状況を丁寧に観察。それぞれの発達に応じた「座って遊ぶ」の環境について検討する。7月3週に布仕掛け絵本、スタッキングできる箱玩具、お世話遊びのできる赤ちゃん人形の導入。

8月3週目に机上での指先遊びができる環境設定。それぞれに子どもの興味、関心を継続的に観察し、評価環境改善につなげる。

9月～11月：現在の子どもの姿から次の発達を読み解き「立って遊ぶ」、「歩いて遊ぶ」の環境について検討する。9月1週目に引き車、壁面玩具の導入。10月2週目押し車の導入。安全面についての配慮等を検討しながら環境改善していく。

11月～12月：座って遊ぶ、立って遊ぶ、歩いて遊ぶのそれぞれの発達の広がりをつなげ、次の発達の見通しを検討する。12月2週目キッチンとおままごと道具の環境設定。生活の再現遊びを中心に室内遊びのコーナーの環境構成と動線を検討、整備。活動のまとめ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

座って遊ぶ：布仕掛け絵本、スタッキング玩具、赤ちゃん人形、ペグ差し、型はめ玩具購入。個々の発達に合わせて適した遊びの環境設定

立って遊ぶ、歩いて遊ぶ：引き車、押し車購入。座って遊ぶで導入した玩具を棚上に設置し、立って遊ぶ、の発達に合わせて環境設定

それぞれの発達の広がりをつながり：キッチンテーブル、おままごと道具、具材購入。生活の再現遊びコーナーの導入に当たり室内全体としてのこのコーナー環境設定

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 現在の個々の発達状況を観察。座って遊ぶにフォーカスし必要な環境を月齢差を考慮して洗い出し環境を作り、子どもの姿を観察、評価改善していく。→座って遊ぶのバリエーションのトライ＆エラー
2. 座って遊ぶの環境から見られる個々の次の発達への見通しと環境を検討。立って遊ぶ、歩いて遊ぶにフォーカスし安全面を考慮した環境構成を室内全体として捉え環境を作り子どもの姿を観察、評価改善していく。→個々の発達の流れを全体的にとらえ環境設定に生かしていく。
3. 1.2の取り組みを踏まえた子どもの育ちの道筋と広がり繋げていき環境を検討。生活の再現遊びの芽生えを支える環境設定→個々の興味関心を観察、考慮し、分散して遊べる環境、内容について評価改善をしていく。
4. 個々の発達を踏まえクラス内の月齢差を考慮した安全なおもちゃの環境構成について振り返りとまとめ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めは床でお座りをして遊ぶ環境を作ったが、まだハイハイしかできない子、歩ける子が混在し、集中して遊ばず、歩ける子が待って行ってしまう状況があった。机上での遊びにも展開し、分散しそれぞれに遊べるようにしたことで、じっくり布絵本を指先でつまむ、引っ張るなどやってみたい気持ちが集中してできていた。型はめ、ベグ差し等の玩具は最初はなめる、振るなど五感を使い確かめて楽しんでいた子も、他児の様子を見ながら成長とともに刺激を受けながら次第に同じことをやってみようとし、それぞれのできたにつながっていった。つかまり立ちからの伝い歩き、歩行の安定がそれぞれに見られる中、遊びの分散と、安全面の視点から、ベグ差しを棚の上に固定したり、引き車、押し車のために室内を広く使えるようにした。同じ発達の児同士で同じ遊びをやるうとしたりする中、使っていた物を取られたり、使いたい気持ちを保育者に訴えたりするなど、気持ちのぶつかり合いも見られるようになった。クラスのほとんどの児の歩行が安定した中、室内での遊びがご飯を食べる、やりもらい遊び、人形を使った寝かし付けなど、再現遊びの始まりが見えてきた。赤ちゃん人形での遊びにも変化が見られいっしょに寝る、抱っこするからご飯をあげる、寝かせてあげたりと、お世話をする姿が見られるようになった。日々のお茶のみをおままごとの中で保育者、友達と楽しんだり、手洗いの再現をしたり生活の中での繰り返しを楽しむ様子がみられた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

同じ玩具でもそれぞれの楽しみ方もあるが、発達にあった玩具で集中して遊ぶ姿が中々見られない環境だったが、同じ座って遊ぶでも、誰の何の育ちにフォーカスするのかを明確にし、みてわかりやすく分散して遊ぶ環境を作ること、集中できること、促す発達に違いがあることに気付いた。クラス内での様々な機能の発達がまちまちの中、他児からの刺激に応答しながら遊びが広がっていく様子も見られ、0歳児のクラスでの子どもたち同士のやり取りは特に視覚を中心に豊かにあると感じた。個々の発達に見通しをもち、発達の違いに応答的な玩具の選定、繰り返しが積み重なった生活の中で再現遊びを土台にした室内環境を今後も目の前にいる子どもたちと一緒に作って行きたい。